



1636年～1869年(約230年)

伊予西條藩を知る ⑥



(第一次西條藩)一柳家、(第二次西條藩)松平家

第3代藩主 松平頼渡 (在任期間 1716～1738年)

第3代西條藩主 松平頼渡(よしただ)は、初代藩主**松平頼純**の五男で2代西條藩主**松平頼致**(第6代紀州藩主**徳川宗直**)の弟にあたり、若干11歳で藩主となりました。頼渡は、享保14(1729)年に一度入国しているが、その後106年間、9代松平頼学まで西條藩主の入国は途絶えた。8代將軍**徳川吉宗**の治世の享保17年(1732年)、前年の冬以来気候不順で5月頃から多雨で7月頃まで冷雨が続いた。低温によって作物の生育は悪い上に、大規模な虫害(ウンカ、いなご)が大発生して畿内以西(関西一円)に大飢饉をもたらした。大規模な凶作に見舞われ、飢人264万人、飢死者1万2172人とあるが実際の数、これよりはるかに多く死者は約17万人、飢餓に苦しんだ人は250万人と推定されている。中でも伊予は被害の多かった地域で、伊予八藩内の飢人279,335人、飢死者5,818人を数え、伊予国人口約50万人の実に55%が飢えに苦しんだ。松山藩の飢死者は、約6,000人を超えたとされます。しかし、西條藩や小松藩では、1人の餓死者も出なかった。これが、世に言う西南日本を襲った「享保の大飢饉」であります。

享保の大飢饉における飢人・飢死者数
(享保17-18年)

藩	飢人	餓死者	時期
宇和島	56,980	不明	18年2月
吉田	24,600	〃	18年2月
大洲	43,000	〃	18年1月
新谷	6,330	〃 (17年11月まで0)	17年12月
松山	94,783	5,705	17年12月
今治	26,553	113	17年12月
小松	5,411	0	18年2月
西条	22,678	0	18年2月
計	279,335	5,818	

- 「愛媛県史」資料編近世上所収の「虫付損毛留書」より作成
- 飢人数は救恤米を希望する際の目安になるので、藩によっては度々飢人増加を届け出ている。
- 餓死者数を幕府に届け出していない藩は不明とした。

西條藩には、「荒瀬弥五左衛門」という奉行役が、享保9年に藩庁の許可を得て築造中の多喜浜(現新居浜市)の塩田の総責任者天野喜四郎(米屋氏)を呼び、凶荒(きょうこう)に備える対策を話合った。飢饉到来を見越した荒瀬は、部下を中国筋の鞆(とも)の浦や尾道へ派遣して、米穀5000余石を調達し、30余隻の船で領内へ運び入れた。そして、享保18年(1733)には多喜浜東分の塩田築造にかからせた。この一種の公共事業対策は、飢人救済に貢献するところが大きく、米作不能となった農民等を塩田開発の人夫として使役し救済米を与えた。飢饉から救済された人々は大いに喜び、この浜を**多喜浜**と呼び始めたといわれています。



將軍**徳川吉宗**は、

「荒瀬のごとき奉行一國に一人あらば西國がように飢えさせは致すまい」と、賞讃したといわれています。

「西條藩のお勝手役、享保の大飢饉にその施策よく、領民を救った大恩人」**荒瀬弥五左衛門**の墓は、西条市北町にある荒木満福寺に夫婦仲良く並んで建っています。

参考資料:

西條人物列伝(西條郷土史研究会)、池畔の柳影(愛媛新聞社)、西条市誌(西条市)、西條誌(伊予西條藩)

愛媛県生涯学習センター「えひめの記憶」、氷見公民館だより(平成26年7月号)、